

その虚言は誰が為に

ザ・バルタン星人

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

とある世界で一生を終えた青年が、多くの世界を旅する話。

ローリーこれは、彼が楽しむ為の物語。

その序章である。

今後書くクロスオーバー物のオリジナルとなる(予定の)作品です。

前回、『Fate/Hypocritical Saver』という題名で作品を出していましたが、あらすじ欄で「やめる時、休載する時はきっぱり言う」とか言った癖に、非公開設定にして逃げてしまいました。

僅かな時間しか公開していませんでしたが、それでも拙作をお気に入りにして下さった方、UAして下さいた方に対して失礼なことをしてしまい、申し訳ありませんでした。

今後はどれだけ稚拙な文章、ストーリーになろうが、非公開はせずにいきたい所存です。

……好きな時に投稿する(≡長期スパンになる)のは変わりませんし、色々と修正しないとも言いませんが。(↑オイ)

あ、R-15は念の為です。

目次

プロローグ	1
主人公設定	4

プロローグ

「……現代において、『神秘』とは科学的に実証不可能な事象をさす。

都市伝説、UMA、超能力者、その他諸々の怪奇現象は、大学教授やその道の専門家の活躍によってイカサマ、或いは迷信と片付けられる。

だが、中には解決できずにそのまま放置されている案件もある。では、それらは一体何なのか。

答えはこの一つに尽きる。

「……本物である」と。

だが、人々は『それ』を認識せず、しようとも思わない。

何故なら『それ』は、人々が今まで積み上げてきた『神秘が存在しない現実』を根底から覆しかねないからである。

人々は理屈の通らない現象に嫌悪を抱く。

無論、逆に好奇心をくすぐられるような奇異な人間も存在するだろう。

『だからなんだ、そんな事私には関係無い』と、はなから気にしない人間もいるかもしれない。

だが想像してみたい。

例えば、『死んだ人間が動いて襲ってくる』といったフィクションさながらの事が、現実起こったとしよう。

テレビの向こう側で起こるのではなく、今この瞬間自分の部屋になだれ込み、腐臭を撒き散らし、肉を食いちぎらんと迫ってくる様を思い浮かべて欲しい。

人はそんな状況で正気を保てるだろうか。

勿論、全ての神秘がその様な悍ましいものであるという事はない。

だが、感覚としては同じものだと言言できる。

『正体不明』や『理解不能』といったモノは、殆どの人間に『恐怖』を与える。

故に人間は忌避するのだ、『神秘』の存在を。

だからこそ淘汰されたのだ、“その世界”では。

———そう、魔術世界は、“その世界”には存在しない。

そこは、数多の世界が共通して認識する“フィクションの世界”が存在しない、俗に言う所の“現実世界”の一つである。

しかし、この世界の過去には神秘が存在していた。

畏れられ、忌避され、唾棄された為に既に絶えてしまったが、唯一の例外があった。

世界から神秘は消え失せたが、人の身体にはその名残があったのだ。

ただ残っていただけの、機能することもない忘れ去られた遺物となる筈だったそれが、全てを狂わせた。

たった一人の人間の男が、それを目覚めさせた為に。

彼が持つ因子は異常だった。

人の身でありながら、既に絶えた筈の、それも、膨大なまでの神秘をその身に宿した彼は、明らかにこの世界にとって異物であった。

しかし、人々は彼を受け入れた。

何故なら、彼の持つ神秘に人々は、あろうことか彼の救世主を重ねたからだ。

彼さえいれば、この世のあらゆる不幸が報われる。

彼さえいれば、あらゆる悲劇が過去になる。

彼さえいれば、この世で生きる人類の全てが救われる。

だからこそ、人々は彼に求めた。

———彼自身が、救世主に成る事を。

――それが、終わりの始まりとなる事も知らずに。

主人公設定

真名：○○○

性別：男

身長：170cm

体重：62kg

出典：????

地域：????

属性：中立・中庸

イメージカラー：赤

特技：昼寝

好きな物：猫、昼寝、たまごかけごはんTKG

苦手な物：イジメ、この世全ての害虫G

天敵：???

??備考

正体不明の英霊。

グランドオーダー完了後のレムナントオーダー遂行の最中に出現した、微小特異点渋谷で存在を確認されたはぐれサーヴァント。

魔術らしきものを使つてはいるが、その力の詳細も不明。

聖職者系サーヴァントは、彼に対して並々ならぬ興味を抱いている。

曰く、ふとすれば祈りたくなる様な清廉な気配がするとのことだが……。

—————

ストーリー：その虚言は誰が為に

《亜種並行世界　：　無命収束心地　渋谷》

・特異点番号：亜種特異点?

・時代：A・D・201×

・人理定礎値：不明

・場所：日本 東京都 渋谷区

▽あらすじのような何か

※この世界にはF G Oが存在する

どこかでロンギヌスの槍の欠片を拾う

彼の持つイエス・キリストの因子が覚醒して身体が変化

(以後、彼はこの現象を転身と呼ぶ。清姫は関係ない)

← ロンギヌスの槍集結

← キリストの記憶のフラッシュバック (証明根拠無し)

← 奇跡の行使が可能になるが隠匿 (姿も奇跡で誤魔化す)

← 隕石を撃ち落として露見

← 救世主として祭り上げられる

← ?

← 全人類消滅

← ロンギヌスの槍を分割して全世界に突き立て物質固定し、全人類の蘇生方法を模索する

← 時間経過

← カルデア来訪

← 抹殺せしめるべく記憶の無いサーヴァントと偽って味方のフリ。

← 敵は自作自演し、隙をうかがう

← バレて決戦

← 敗北

← 特例として英霊の座に登録される

← 下総国直前のカルデアへ

—————

外見は黒髪ロングで金眼の美少女………と、見紛うばかりの美青年。

普段は赤いズボンに赤いシャツ、赤いパーカーという赤づくしのスタイルで、フードを被っている。

簡素な杖に形を変えた槍も持っている。

ものぐさな性格だが、頼まれたことは大体二つ返事で引き受け、かつ基本的にやり切る為、本質的にはお人好し。

自分に対してズボラで、引つ込み思案なだけである。……それはそれでダメだろう。

一人称は基本「私」で丁寧口調。

ただ怒ったりして素が出ると「俺」になり、年相応の青年らしい口調になる。

何かしら物事を見る際には妙に俯瞰的になる節があり、相手が悪事を働いても、相手の立場において筋が通った行いであれば特に非難もせず、場合によっては評価したりする。

逆に味方の行いを別の視点をもとに非難したりもする。

これは彼がどの立ち位置にいても関係なく通すスタンスである。

基本的に余程の異常者でない限りは、彼は一個人の在り方を否定し

ない。

相手の主義主張を、善悪問わず「そんな考えもあるか」と割り切っている。

これらの行動原理は、彼が救世主として活動するにあたり、相手の立場になってモノを考えたたり、哲学を学んでいたことが理由である。

ネロ皇帝の博愛主義とは違う意味で平等的と言えるだろう。

ただし、あくまで相手の在り様を認めるだけであり、自分の考えや主張を引っ込める様なことはしない。

加えて、平等主義ではなく、一個人に対しての物の見方が平等なものであって、それぞれ立場（上下関係など）があればそれを考慮した行動をとる。

※後述のステータス等の設定は、座に登録されてサーヴァントとして召喚された場合のものです。

??クラス適性

キヤスター・アサシン

??ステータス

- ・筋力：E
- ・耐久：D
- ・敏捷：D
- ・魔力：A++
- ・幸運：C
- ・宝具：EX

??スキル

- ・魔力掌握（A+）

彼の持つ固有スキル。

読んで字の如く、魔力の操作に関してはほぼ万能と言っていい（だからといって魔術に精通出来る訳ではない）。

自身は勿論、他者の魔力及び大気中の魔力を操る事が可能。ただし、他者の魔力に関しては直接触れる必要がある。

魔力をソナーの様にして気配感知の代わりにする事もできる。

更に、同ランクの対魔力、魔力放出、魔力防御と同じ能力を得る。

本来の対魔力では無効に出来る対象は魔術だけだが、このスキルでは魔力を攻撃として使用する宝具やスキルにも耐性を得る。

加えて、こちらが魔術を使用する際、相手の対魔力のランクを下げて貫通させる事も可能。

その性質上、シングルアクション一工程の魔術が多いルーン魔術を多用する彼には必須のスキル。

・二重召喚 (B) ▪

二つのクラス別スキルを保有することができる。

極一部のサーヴァントのみが持つ希少特性。

彼の場合、アサシンとキャスター、両方のクラス別スキルを獲得して現界している。

・陣地作成 (C) ▪

魔術師として自らに有利な陣地を作り上げる。

彼の場合、魔術だけでなく既存の科学製品も組み合わせたりするので、他の英霊から揶揄された『ガラクタ部屋』なるモノの形成が可能。

「や、良い物もちゃんとおあるんですよ？」

けどまあ実際、ほとんどガラクタですしねえ……ええ……はい」

・道具作成 (C) ▪

魔力を帯びた器具を作成可能。

彼の場合、後述の宝具2つを使用する事で道具を作成する。

ランクはC-だが、素材がいいので（成功すれば）仕上がりは大抵B以上のものになる。

・気配遮断 (D) ▪

自身の気配を消す能力。
攻撃態勢に移るとランクが下がり、ほぼ確実に気づかれる。
その為、彼は暗殺ではなく、もっぱら偵察用に使う。

・魂魄眼（EX）

霊基、或いは魂、或いはそれに準ずるモノを視認することができる。
視認したそれらの情報から、対象の感情の動きや、体調の良し悪し、
発言の真偽を見抜ける。

更に、対象が誕生した時点の過去から、キャスターの活動する現在
までの生の記録を総合し、キャスター自身の倫理観を基準に対象の属
性を判断できる。

生の記録自体はキャスターは知る事が出来ず、最終的な結果だけ視
認できる。

霊基などを視認する時に限り、あらゆる視覚妨害（偽装を含む）を
無効にする。

・単独顕現（A）

ビーストクラスのみが持つスキル。

単独行動の超上位互換。

現界すれば存在を完全に確立する為、タイムパラドックスを用いる
などの時間操作系攻撃や、即死系攻撃をすべて無効化する。

・ネガ・スクリップチャー（EX）

生前の彼は願いを叶える為に、あらゆる奇跡を新たな聖典に刻ん
だ。

過去から現在に至るまで、視認した存在の能力・技術を記憶し、相
応の魔力を消費する事で再現できる。

ただし、その際には再現するものに^{イマジナリ・ブラッド}応じて具現される奇跡の魔力を
消費する。

人間や英霊はおろか、同属の人類悪（ビースト）によるものまで、あ
らゆる力を自身の力として理論上は再現可能。

忘却補正と似た効果も発揮し、一度見聞した記憶は決して忘れない。

これにより、あらゆる精神系攻撃を無効化する。

更に、現界している間の記憶は、座にいる本体に記憶として常時アップデイト上書きされる。

即ち、『記憶の持ち越し』が可能となる。

よって、通常のサーヴァントは「召喚される度に前回とは別人となつて現界する」といった現象が起きるのに対し、彼だけは必ず本人が召喚される。

もつとも、記憶であろうが記録であろうが、他の英霊と同じようにその量が膨大であることに変わりはない為、常日頃から過去の全てを記憶している訳ではない。

以前のことで思い出したいことがあれば、『検索』をかけて記憶の引き出しを開ける、或いは映画のフィルムのようにざっと見直すといった形である。

??宝具

イマツナリ・ブラッド
具現される奇跡

「『コレ』こそが、私という英霊の強みです」

- ・ランク：EX
- ・種別：対人宝具
- ・レンジ：1～100
- ・最大補足：10人

魔力を内包した彼の血液。

彼が持つ多くの反則級の宝具において、汎用性に優れた宝具。

彼の意思で自在に形や硬度を操作したり、内包された魔力を消費することにより、任意の概念を血そのものに、或いは別のモノに付与できる。

スキル：ネガ・スクリプチャーの燃料でもある。

内包されている魔力量がイカれており、持ち前の魔力とこの宝具を合わせた総魔力量は、正規の英霊ですら敵う者はいない。

しかし、あくまで血液であるため、考え無しに乱用すれば貧血状態になるので、1日の使用量は限られている。

付与できる概念は彼の持つ常識と固定観念、想像力に左右される。例を挙げると、『プリズマ☆イリヤ』にて、イリヤが「魔法少女は飛べる」というイメージで飛行できたのに対し、美遊は航空力学にもとづいて「人が単体で飛行することは不可能」という固定観念のせいで飛行できなかつたということがあったが、これと同じことが彼に当てはまる。

イメージが曖昧で再現がおぼつかない場合、魔力を多く消費することで補強できる。

消費した血液はマスターからの魔力供給があれば自然回復するが、食事や睡眠をとれば回復速度が飛躍的に向上する。

なお、血は抜き取って結晶化し、保存することが出来る。

そのため彼は、血を使っていない時間はこまめにこれを貯蓄している。

結晶化した血は正体を悟られない様に透明にしておく為、宝石にも見える。

『膨大な魔力を内包している』『任意の概念を付与できる』といった特性から、スキル『道具作成』の材料としても使用する。

・ ダイヤモンド・オブ・アリス
・ 終局世界・無命惑星

「超・便利ですよコレ！」

私が言うのも何ですがズルいです！」

・ ランク：なし？

・ 種別：???

・ レンジ：???

・ 最大補足：???

彼が生きた現代世界を映した固有結界。

正真正銘、魔術が存在しない科学技術のみが発展した世界であるため、宝具でありながら、その世界に存在するモノには一切神秘が存在しない。

その為、サーヴァントとの戦闘には直接的に全く役に立たない代物。

しかし、この宝具の真価はそこではない。

この世界は地球を丸ごと1つ再現したものであり、そこにある資源は全て自由に使うことができるというチートレベルの支援型宝具。

食糧は自身の宝具（血）の補充に、宝石・貴金属等は資金作りに、兵器・機械類等は『道具作成』の材料にと多方面でその有用性を発揮する。

ただし、植物は存在するが、人間を始めとした動物は存在しない。いても微生物程度。

わざわざ結界を展開せずとも、ゲート・オブ・バビロン王の財宝よろしく赤い円形の窓を空中に出現させ、資源を取り出すことも出来る。

展開しない限り結界内の時間は停止しているので、非常に保存性に優れた倉庫としても使える。

その気になれば、巨大な門を展開して、海水を大量にぶち撒けて水攻めにしたり、空からビルを落とすといった攻撃も可能。

前述の通りサーヴァントにこそダメージにはならないが、通常の間相手の対軍戦では凶悪な兵器となる。

ちなみに、召喚されてから消費された資源は回復しない。

つまり有限なので、量が膨大だからといって使い続けると痛い目を見る。

そうそう使い切ることは無いだろうが……。

・今は亡き救済の槍
「宝具限定解放」

・ランク：A+

・種別：対軍・対城宝具

・レンジ：1～100

・最大補足：10000人

あえて真名を偽装登録することで強大過ぎるこの槍の力を大きく制限しているが、それでもなおその力は強力。

アーサー王の約束された勝利の剣と攻撃の様子が似ているが、詳細な原理は不明。

威力と範囲を絞るだけでなく、追尾性能を付与する、1度に複数放つ、本来は刺突だが斬撃に変換して飛ばせる、本体を空中に浮かせて操れるなど、大分応用が利く。

その槍が持つ本来の性質から、神性を苦手とする、或いは神性を持つ相手に対して絶対的な特攻能力を得ている。

更に、その槍の持つ『様々な形状で複数存在していた』という逸話から、形状を変化・分裂させることができる。

その際の変化させる形状、分裂させる数、サイズ、重量などは自由に設定できるが、武器の範疇に収まる以上に巨大かつ過重にしたり、分裂させる数が多くなるほど神秘性が薄くなり、ランクが下がる。

・星墮とす神殺しの槍

「蒼天を刮目しろ

再現されるは、星殺しの偉業」

・ランク：EX

・種別：対国・対星宝具

・レンジ：10～1000

・最大補足：10000人

真名を明かすことで、この槍の本来の力を解放した宝具。

事実上、ロンギヌスの槍はキリストの生死確認に使用され、後世でもその存在が使用者と共に歴史に記されており、現物と思しき物も複数存在する。

が、実際は諸事情により、聖者の生死の確認に使用された後は砕かれており、現物とされた物は全て一部の破片を混ぜ込んだ模造品である。

破片となった槍が、個々に星の内海に取り込まれて精製され、キャスターの因子覚醒に呼応して集結し、神造兵装となったものがこの槍の正体。

約束された勝利の剣の様に光の一撃を放てるのはこの為。

そもそもこの槍は隕鉄（隕石に含まれた鉄）をもとに造られたと言われている為、星に鍛えられたことと、生前にキヤスターが隕石を迎え撃つ為に使った、強力な奇跡の力を切っ掛けにして、その属性を発現させた。

放たれる魔力量が増加する事と対星の概念が追加される事以外は今は亡き救済の槍と同様。

だが、その規模が洒落にならない。

最小出力で放ったとしても、大英雄カルナの日輪よ、死に給へに競り勝てる程。

表記されていないが、対神・対魔宝具でもある。

ただし、使用の際に消費される魔力も洒落にならず、なんの準備も無しに放てば彼自身は勿論、そのマスターも魔力枯渇で干上がる。

その為、ノーリスクで使用するには具現イマジナリ・ブラッドされる奇跡の貯蓄が一定量必要。

本来なら貯蓄が無くとも、彼自身の魔力を全て使えば中の下の出力で1回分は賄える。

だが、彼が一切の知名度補正を受けられない反面、この槍は知名度補正の恩恵を最大限に受ける。

このチグハグな状況によって使用魔力が大幅に増大する為、貯蓄を使用する羽目になった。

本来の人類史上にはありえないが、彼の生前の行為によって、例外的に「星を殺す」という権能レベルの概念を有している。

おまけに約束された勝利の剣の様に、『人類の脅威を相手にした時のみ、真の力を解放出来る』といった制限セーフティーも無い。

故に、真名解放で使用するには抑止力、しかもアラヤとガイアの両方に目をつけられる。

空に向けて、或いは地面スレスレにぶつ放す分にはまだ見逃されるが、真下の地面、つまり地球に向けて全力全開を放とうものなら、天地乖離す開闢の星同様、即排除対象にされる。

ワンス・モア・パース
・再臨・現人神核

「これが真正正銘の奥の手だ……！」
アクティベーション
因子励起!!」

・ランク：EX

・種別：対人（自身） 宝具

・レンジ：1

・最大補足：1人

一時的に自身を神霊化し超強化する。

発動時は宝具、スキルを含む全ステータスがワンランクアップし、
++の補正が付く。

EXだった場合は表記は変わらないが、性能が更に底上げされる。
加えて、この宝具の発動中に限り、Aランクの神性スキルを獲得す
る。

規格外にも程がある性能だが、当然代償として霊核に深刻な負荷が
かかり、消滅寸前まで損壊する。

その為、戦闘を終えてから一ヶ月は戦闘行動は不可能となる。

その際には、一部を除くほとんどのスキルと宝具も使用不可とな
る。

使用時間が短ければ負荷は軽減出来るが、発動するだけでも相当の
負荷がかかる為、精々一ヶ月が一週間になるだけである。

詳細←

彼自身は純正の人間だが、その身に聖者の因子を宿し、人々から救
世主の再来と謳われていた為、現人神の如き性質を持っていた。

その結果、普段は神性の片鱗すら出さず、この宝具を発動させた時
のみ高ランクの神性スキルを発現させる。

ランクアップと++の追加補正により、身体能力のステータスは魔
力以外は中々上級サーヴァント程度となるに留まるが、この宝具にお
いて特筆すべきは、他のスキルと宝具の超強化である。

まず魔力掌握は、強化前では擬似的な対魔力で、自身に向けられた
魔術はほぼ無効化していたが、それ以外の魔術相手だと狙いを逸ら
す、効果を軽減するといった阻害干渉が精々だった。

強化後は対応が間に合いさえすれば、自身に向けられた魔術でなく

とも、術式の強度、難度、込められた魔力の多寡に関わらず、その一切を無効化することが可能になる。

即ちセルフ破戒ル・ブレイカーすべき全ての符。

他のキャスターからすれば鬼門どころではない天敵中の天敵となる。

また、普段は思考加速しか使えないが、後述の保有魔力の増加と相まって、この時に限り並列思考も行えるようになる為、取れる戦術の幅が広がる。

具現イマジナリされる奇跡は、一滴あたりの内包する魔力量が十倍以上になる。

更に恐ろしいことに、貯蓄しておいた血液も例にもれない為、状況次第では聖杯すら軽く上回る魔力を手に入れられる。

これによる保有魔力量の増加も凄まじいものがあるが、素の魔力のステータスの方も、A++から限界突破という意味合いでEXになっている。

よって、生前には及ばないものの、通常のサーヴァント状態よりも、より生前に近い性能を発揮できる。

終局世界・無命惑星デスマイズ・オブ・アースは、物資の質・量に変化は無いが、結界内の物資に対して任意に、かつ無条件で神秘を付与できるようになる。

サーヴァントにダメージを通す為には通常、強化などの魔術の使用や、具現される奇跡を用いた加工による神秘性の付与が必要だが、それらの手間もコストも無くなり、『祝福』と称して一律にCランク相当の神秘性を付与できる。

つまり前述の対軍戦術がサーヴァント相手にも通用するようになるということ。

更に、一度神秘を付与した物資は、再臨・現人神核の効果終了しても神秘を付与されたままになる。

今は亡き救済の槍クラスタ・レイと星墮ロス・トロンギヌスとす神殺ロンギヌスの槍はもはや言わずもがな。

敢えて言えば、星墮ロス・トロンギヌスとす神殺ロンギヌスの槍は間違いなく上に向けて撃たなければ、抑止力の介入で発動自体を無かったことにされる。

??戦闘方法

まず、思考加速、痛覚遮断、身体強化の魔術は確実に、そして最初に付与する。

相手との戦闘が初戦の場合、基本的にはガンドやルーン魔術による遠隔攻撃を行って大体の戦法を把握する。相手が近接戦に持ち込んでも槍や徒手格闘で普通に対応するが、相手のステータスより少し上になる様に身体能力を強化する。

その後は自身の貯蓄と相談して、適宜宝具の使用による強化や攻撃を行う、といった具合である。

一応星墮とす神殺しの槍を切り札とするが、再臨・現人神核が正真正銘最後の奥の手である。

その時その時の保有魔力量が強さに直結する英霊。

召喚された直後は『打たれ弱い器用貧乏』だが、少しも魔力を使わずに温存し続ければ『超ハイスペックオールラウンダー』となり、ヘラクレスすら一撃で仕留めるだろう。

魔力のやりくりに気を付けければ、恒常的に強力な戦力として運用出来る優秀なサーヴァントである。